

# \* 研究授業からの学び \*

2022.2.25  
No.9  
文責 新玉

令和4年 2月16日 (水)

第6学年 総合的な学習の時間 谷口 由紀 教諭

単元名 「西土佐の未来」(全50時間)

小単元4 「西土佐の星空のことを伝え、守ろう」(20時間)

## <単元でつけたい力>

- 西土佐の星空の魅力や星空の環境を守る取組を理解すること、またそこに携わる人の思いや願い、自分たちの生活につながっていることを理解する。【知識及び技能】
- 西土佐の星空の魅力やよさ、存続させるための取組を伝えたい相手や目的、意図に応じて伝え方を工夫しながらまとめ表現する。【思考力、判断力、表現力等】
- 異なる意見や、他者の意見を受け入れながら、自他のよさを生かし、他者と協働して探究活動に取り組もうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

## 本時の目標

リーフレットで伝えたい思いや相手を引き付けるキャッチコピーに合った表紙に使いたい言葉を、吟味することができる。

## 本時の評価規準

伝えたい思いや相手を引き付ける言葉を、今までの体験や経験、学習してきたことを基に、関連させながら理由付けして考え、話し合っている。【思】

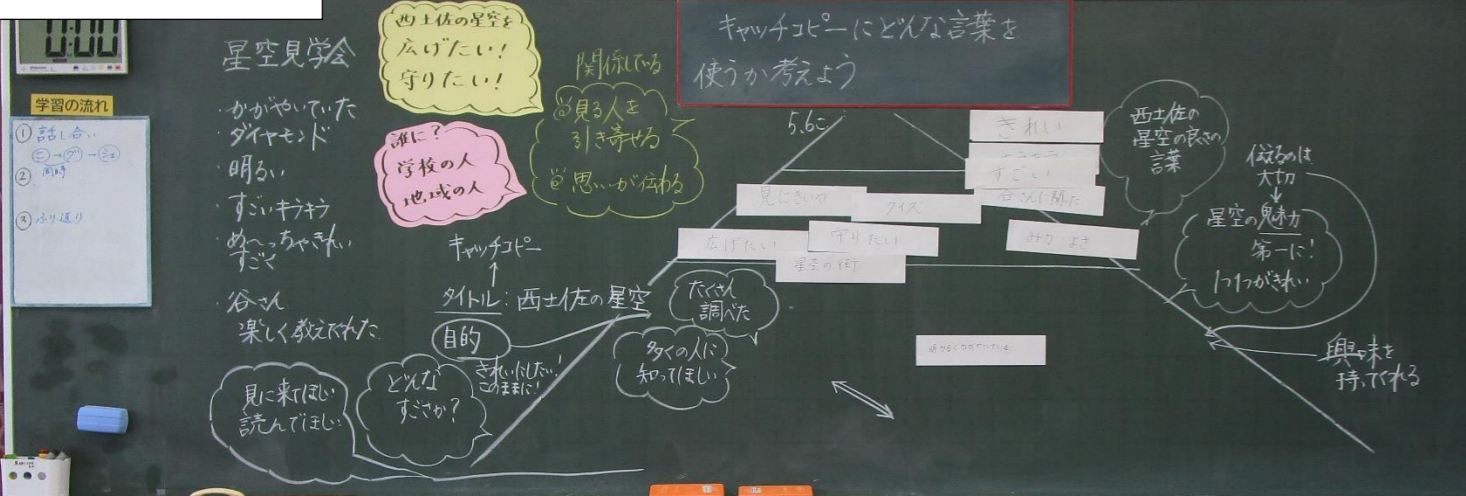
## 本時の授業風景

ダイヤモンドのように輝いている西土佐の星のきれいさを、学校や地域の人に伝えたい!



「星空の街」と言われていることを多くの人に知ってほしいから、キャッチコピーに、入れよう。

## 本時の板書 (2/16)



## 研究協議より (抜粋)

### 授業者より

- 西土佐で育った子どもにとっては当たり前の「星空」を、西土佐のよさと気づき、ふるさとへの誇りを持たせたいと考え取り組んだ。
- 体験が大切だと考え、専門家の話を聞き、実際に星空を見る活動も取り入れるなどしたが、まだ不十分だった。
- 一人一人が自分の思いを伝えることができた。
- 子どもの思考が止まったときに、過去の体験や振り返りを活用するとよかった。
- ピラミッドチャートを使って思いが伝わる言葉を選んでいったが、意見をしぼるような声かけが必要だった。

### 参観者より

- 学級の雰囲気がよく、意見をつなげて活動できていた。
- 目的が明確で、自分の意見をしっかりと持ち、発言できていた。
- 写真、振り返り等学びの足跡を教室に掲示していることで、これまでの活動を振り返って考える手立てとなっていた。
- 例をいくつか見せるなど、キャッチコピーのイメージを確認するとよかった。
- 体験を基にした言葉を出させるために、グループで言葉をしぼってから意見を出させるとよかった。

### 指導主事より

- ・一人一人が思いをもって言葉を選び、選んだ理由を発表できていた。
- ・自分たちで協働して問題解決できていた。
- ・キャッチコピーを考える活動を通して、子どもたちにどんな力をつけさせるのが大事。単元が終わったときのゴールイメージを授業者が明確に持つておくことが必要。
- ・リーフレットの内容を書いていたなら、キャッチコピーを考えやすいのではないかと。
- ・西土佐のよさや魅力が、伝えたい具体的な理由として、明示されていてもよかった。
- ・実際にキャッチコピーを考えさせてもよかった。リーフレットを作ってみて、このキャッチコピーでいいのか練り合うこともできるのではないかと。

### 授業者のリフレクションより

今回の授業で学んだことは2つある。1つ目は、もっと子ども中心の授業にしていくことである。子どもたちが考え、発言し意見がつながりそうな時に教師が出すぎたため、つながりを切ってしまった。もっと、子どもたちを信じ、任せて自分たちで解決できるようにしたい。また、意見がなくなったり困ったときなど、必要な時に、教師が出ていってほしい。2つ目は、ゴールや授業イメージをしっかりと持つことである。年間でつけたい力が、授業では、児童のどのような姿を目指しているのか、しっかりと持ち、年間のつけたい力をしっかりとつけていくことが大事だと思った。

### ☆これから取り組んでいきたいこと

- \*子ども中心となって話し合える授業づくり。
- \*授業展開を工夫する。
- \*単元のゴールや授業のイメージをしっかりと持つて、つけたい力を付けられるようにする。
- \*これまでの学習や活動を想起させる工夫をする。